Report

「暴力の根絶」プロジェクト・パネルディスカッション

「暴力の根絶プロジェクト」委員によるシンポジウム。左から宮嶋、友添、菊、山下の各氏

暴力のない柔道を築くために

勝利至上主義からの転換や指導者が己を磨く事の大切さを討論

NPO法人柔道教育ソリダリティー（山下泰裕理事長）は7月14日、都内のホテルでシンポジウムを開き、柔道界で問題になっている暴力体質や指導・指導者のあり方について出席者が話し合った。司会を宮嶋泰子・テレビ朝日編成制作局アナウンス部兼編成部上級マネジャー（暴力の根絶プロジェクトメンバー）が務め、山下氏が基調報告を行った後、友添秀則・早大スポーツ科学学術委員長、菊幸一・筑波大大学院教授らがそれぞれ講演、暴力の歴史、なぜ起こるのか、どうしたらなくせるのかなどを話し合った。

取材◎木村秀和

コーディネーター

宮嶋泰子氏

㈱テレビ朝日編成制作局アナウンス部兼
編成部上級マネージャー
報道ステーションスポーツ特集ディレクター兼
リポーター

文部科学省中央教育審議会スポーツ・青少年分科会臨時委員、文部科学省政策評価に関する有識者会議委員、全日本柔道連盟「暴力の根絶プロジェクト」委員（外部有識者）など

「暴力は柔道界に特有の物なのか」

このシンポジウムは、現在柔道界で問題になっている暴力体質や暴力指導に危機感を持っている山下氏が三者に呼びかけて実現した。話し合いの中から問題解決の糸口を探ろうという試みだ。

冒頭に宮嶋氏が「なぜスポーツ界には暴力があるのか。日本独特の傾向なのか、柔道界と暴力は柔道界に特有のものなのか考えたい」と問題提起。この後、各席に置かれていた緑と黄色のカードを使って出席者に①これまでに暴力を経験したことがあるか（緑カードを挙げる）②見たことがあるか（緑）③暴力を受けた経験はない（黄色）という質問を行った。

驚くべき事に、会場に集まった約300人の3分の2以上が①と②であった。つまり、過半数以上が暴力を経験したか見たことがある、なのだ。③はたった2人だった。

このことからも、いかに日本のスポーツ界、柔道界が暴力に毒されているかがわかる。会場からも驚きの声が起こったほどだ。

「暴力を伴った指導は最低の指導」

最初に山下氏が基調報告。「まず、全日本柔道連盟の理事として一連の不祥事の責任を感じている」と全柔連の理事としてわびるとともに「柔道界として暴力を根絶するために今、活動している。私は今自分に何ができるのかということを自問した上で暴力を根絶することが日本のスポーツ界や柔道界を盛り立てる事につながると思い、今活動している」と語った。

この中で山下氏は、暴力の根絶宣言